

東京大学では、法人化のメリットを生かしつつ、研究・教育を充実

論文被引用数	:	72万	→	104万	【1.5倍】
		(世界14位, 94~04年)		(世界11位, 99~09年)	
科学研究費補助金 採択件数	:	2,501件 (03年)	→	3,090件 (09年)	【1.2倍】
特許出願数	:	84件 (03年)	→	740件 (08年)	【8.8倍】
特許収入	:	9百万円 (04年)	→	173百万円 (08年)	【19倍】
大学発ベンチャー数 (累計)	:	46社 (03年)	→	125社 (08年)	【2.7倍】
企業との共同研究 プロジェクト数	:	543件 (03年)	→	1,214件 (08年)	【2.2倍】
学生のカリキュラム 満足度	:	48% (03年)	→	59% (08年)	【+11 P】
外国人研究者数	:	2,203名 (03年)	→	3,570名 (08年)	【1.6倍】
外国人留学生数	:	2,114名 (03年)	→	2,555名 (09年)	【1.2倍】

一方、予算削減(東大への運営費交付金は法人化後 70億)・
総人件費管理は、法人化の効果を減殺

持続的な研究・教育にとって重大な支障に

「運営費交付金の削減は限界」とする教員の割合 : 84 %

(09年 大学予算に関する教員緊急アンケート)

「教職員数や人件費が少なすぎる」とする教員の割合 : 80 %

(09年 大学予算に関する教員緊急アンケート)

修士課程から博士課程への進学率: 40.8 % (03年) → 29.8 % (07年) 【 11ポイント】

国際的な大学間競争が激化する中、研究・教育の強化と国際化を阻害

	教員1人を支えるスタッフ数	外国人教員比率	留学生比率
東京大学	2.2人	6%	7%
米国有力大学平均	7.6人	19%	18%

米国有力大学…参照したのは、ハーバード、イェール、UCバークレー、スタンフォード、MITの5大学

公的研究費の配分額は、米国の1位大学(ジョンズホプキンス大学)の約10分の1

行動シナリオ(2015年に向けた東大の将来構想)を策定し、 教職員挙げて改革を推進

行動ビジョン

東京大学の知の公共性と国際性
知の共創 - 連関する大学の知と社会の知 -
真の教養を備えたタフな学生

活力のある卓越した教員
高い能力と専門性を持つ職員
機動力のある経営

重点テーマ別行動シナリオ

1. 学術の多様性の確保と卓越性の追求
2. グローバル・キャンパスの形成
3. 社会連携の展開と挑戦
4. 「タフな東大生」の育成
5. 教員の教育力の向上
6. プロフェッショナルとしての職員の養成
7. 卒業生との緊密なネットワークの形成
8. 経営の機動性向上と基盤強化
9. ガバナンス、コンプライアンスの強化

主な達成目標

- ・世界最高水準と認知されるハブ拠点を50以上確保(15年)
- ・留学生比率を12%以上、外国人教員比率を10%以上、英語による授業科目を3倍以上(20年)
- ・すべての学生に海外体験・異文化体験を通じ、コミュニケーション能力や行動力を身につけさせる(15年)
- ・CO2排出量を06年度比15%削減(12年)、50%削減(30年)

上記のような大学の戦略的・意欲的な取組みに対し、
公財政支出の拡充・改善が急務

基盤的経費の
拡充

総人件費管理の
撤廃

競争的資金の
確保と事務の
簡素化

寄付を促進する
税制の整備
(税額控除)



大学への投資は、税収増、失業給付の抑制等だけで見ても、
支出の2倍の便益(文科省委託調査)

成果の実用化、社会的課題の解決、多様な学術文化の継承・創造、国際
貢献等で見れば、priceless